

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100275	
法人名	社会福祉法人 創世福祉事業団	
事業所名	グループホーム「もちずりの郷」	
所在地	福島県福島市岡部字当木前68-2	
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigodb.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福島県介護支援専門員協会
所在地	郡山市亀田二丁目19-14チャレンジビル2階
訪問調査日	平成26年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の楽しみでもある食事の工夫 ・行事の取り組み(昔からの伝統行事を大切にしている) ・まごころを込めた接遇 ・個別のケアを大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ゆっくり・ゆったり」をモットーにしたケアの提供がなされており、利用者をせかせかなく1日の時間が流れている。 管理者とスタッフのコミュニケーションが良く、日常的に話し合いを行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業団の理念でもある、キリストの愛と奉仕の精神で、まごころ込めた接遇をさせて頂くと共に、「ゆっくり・ゆったり・楽しく・一緒に」を常に心がけ、利用者様が生活していく上での個々に応じた自立支援に努めている。	「ゆっくり・ゆったり」を大切にすることが出来ており、利用者のペースに合わせようと職員一人一人が心掛けてケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長様の計らいで、地域の祭祀等に参加させて頂いている。また、町内の一斉清掃に参加し、町内の方々と一緒に作業させて頂いている。	運営推進員会議を通じ地域の行事に誘われたり、職員が盆踊りの櫓立てや清掃活動に参加し地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進員会議を通して、管理者及び職員、地域包括支援センター職員が町内会長様、老人クラブ会長様、ご家族の皆様に対し、施設の状況や支援の方法などを説明し、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進員会議を活かした取り組み 運営推進員会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進員会議では、医療との連携、具体的な接し方、介護報酬、施設行事についてなど、あらゆる議題を取り上げており、出席できなかった職員には報告書で周知しサービス向上に生かしている。	会議の場で感染予防の対策を聞き、取り入れられたり、地域行事の情報提供を受け、利用者に参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の要介護更新手続きの際や業務連絡、質問などで協力して頂いている。また、利用状況など包括支援センターとの連携も行っている。	運営推進員会議での付き合いや、地域包括との付き合いに留まっている。	長寿福祉課にも積極的に相談を持ち掛け、情報や対策を見つけて行ったり、ホームが貢献できることを提案して行って欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加したり、2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、職員全員で拘束をしないケアを目指している。会議に参加できない職員には、資料を配布し周知に努めている。施設風除室のドアを開放とした。	帰宅願望が強い方がいることと、道路に面していることを理由に常時玄関の施錠がなされていた。	訴えの無い時や落ち着いている時、また、職員の配置が厚い時などは開錠する時間を作って欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加すると共に、管理者や職員は高齢者虐待の防止・対応事例等の配布資料の周知及び虐待防止委員会の会議に出席し、防止の徹底を図っている。利用者様の外泊時の様子を細かく把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を必要としている方はおられないが、外部の研修会に参加し学ぶ機会を持っている。また、東大市民後見人養成講座の受講生の実習生を受け入れ、アドバイスを頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の読み合わせを行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、苦情に対して受付窓口を設置し、迅速に対応、事実関係の調査の実施、改善措置、利用者様またはご家族に対する説明、記録の整備等必要措置を講じる。	面会などに訪れた家族様に声掛けを行い、要望や意見を聞く努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所独自の自己評価を職員全員に行って頂き、職員一人一人が施設長などと話し合う機会を設けている。	日常的にあらゆる機会をとらえて、職員は管理者に意見を述べる事ができており、月1回の全体会議で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、法人全体で永年勤続の表彰を行っているほか、職員の資格取得に向けた取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務状況を踏まえ、施設内外の研修会に参加できる機会を設けている。また、認知症実践者研修を受講した職員が増加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム協議会に入会し、研修会に参加するなど他のグループホーム職員と交流する機会を設け、情報交換を行いサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人や家族と話しをすることにより、病歴、生活歴の把握に努めている。利用が始まってからは、日常会話の中から思い出を引き出したりと馴染みの関係ができてきている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にグループホームの見学して頂く他に、ご家族のお話をお聞きしており、利用が始まってからも面会時や電話などで連絡を取り合いご意向を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員(職員含める)は、ご本人やご家族のご意向を伺いケアプランを作成し支援に努めるほか、医療との連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して、掃除や食事の準備、洗濯物干しを職員と共に行うほか、利用者様の力量に応じて編み物、縫い物、塗り絵、パズル、貼り絵などを行って頂いており、残存機能の維持に努めるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真入りの近況報告を送付したり、行事のお知らせをして、ご家族の方に自由に参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方に多く利用して頂いている為、馴染みのご友人や民生員の方にも、気軽に訪問して頂いている。	行きつけにしていた和菓子屋と一緒に買い物に行ったり、近所に住んでいる知人や友人が面会に来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月の行事やレクリエーションへの参加の声掛けを行い、一緒に楽しめるようにするほか、職員が間に入り、スムーズな関係が保てるようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も変わりなく過ごされているのかを電話等で伺うようにしている。時に退所されたご家族の訪問もあ、感謝の言葉も頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する前に、ご本人やご家族の方から意向を伺ったり、日々の生活の中で何気なく出た言葉を記録し、申し送ることにより意向の把握に努めている。	「〇〇しますか」等の声掛けを行い、本人の了解をもらって上でケアにあたっていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の他にご親戚、ご友人、知人の方の訪問時に生活歴や暮らしぶりを伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に見守り、気配りを行い体調の変化の把握に努めるほか、日常生活で本人が出来ることをして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの意向を伺うと共に、モニタリング表に記入、計画作成者はそれを参考に介護計画を作成している。医療的なものは、主治医、訪問看護師、ご家族を交えて話し合っている。	日常的に申し送りノートを活用して、対応を統一したり観察のポイントを共有している。しかし、その情報とケアプランが結びついていない。また、大きな変化時の見直しが無く当初の設定期間にとらわれている。	重要な記録が見えにくい状態になっているので、書式を見直してはどうか。せっかく行っていることは、記録に残し、プランに反映させて行って欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録へ記載するほか、申し送りノートへも記載し情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人はもとより、ご家族が面会に来られた際に話し合いを行い、意向に沿えるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長様が元消防署に勤務されていたことから、防災に関することや、緊急時の対応等に関するアドバイスを頂き、利用者様が安全に暮らせるように支援している。また、避難場所や必要時には町内の集会所使用の許可を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様及びご家族様の意向で、協力医療機関(酒井内科、おおうち歯科)と連携を取り診察を受けている。訪問歯科診療時には、口腔ケアのアドバイス等も行って頂いている。	協力医療機関以外は家族対応で受診している。その際、カルテのコピーを渡したり職員が同行して直接話をすることで医療との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の変化は、すぐに契約している訪問看護ステーションに連絡しアドバイスを頂き、利用者様が適切な受診を受けられるように支援している。訪問看護ステーションは24時間対応可である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族を交えての話し合いがスムーズに行えるように努めている。また、各医療機関の相談員と密に連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活の継続については、生活状況を随時ご家族や主治医に報告し、今後のあり方を話し合うようにしている。	看取りを含め取り組みたいという意向はあるが、まだ、取り組みはみられていない。	今後予想される、身体機能の低下や認知症状の進行などの重度化にどのように対応して行くのか職員と一緒に検討して欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに添って職員が対応できるよう、休憩室や事務所に掲示し、折に触れ説明している。また、訪問看護師からも指導頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署から署員に来て頂き、避難訓練を実施している。また、法人全体で災害対策委員会が設置されており、定期的に緊急連絡の訓練を行い対策に努めている。	夜間想定での避難訓練は日中実施している。地域の方の協力も受けている。	災害種別だけでは無く、時間帯による変化のシュミレーションをしてみたい。また、備蓄についても被害状況を想定し準備を行って欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔での言葉かけや受け答え、柔らかな言葉づかいをするように心がけている。また、サービス向上委員会を開催し、施設全体及び職員全員でサービスの向上に努めている。	トイレ誘導の際に、本人にだけ聞こえるような声掛けをしていた。プライドの高い利用者については、プライドを損ねないような声掛けを心がけているとのことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理美容時ご本人様が希望されるようなヘアスタイルにして頂いたり、レクリエーション時何をしたいかをたずねたり、食べたいものなるべくお聞きするようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その都度個々に応じたレクリエーションや余暇の過ごし方を支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や着替え時、出来る方には洋服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの下ごしらえや盛り付け、配膳など一人一人の力量に応じて手伝って頂き、職員も一緒に食事を摂っている。	盛り付けや配下膳をする利用者がいた。また、ゆっくり食べる利用者を急かすことなく最後まで待っていた。しかし、会話はあまり聞かれなかった。	利用者一人一人の好む食事を提供することで、食事時の話題に繋がるのではないかと。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を毎食チェックし記録している。また、上手く摂取出来ない方に関しては、調理方法や食材を替えて提供している。毎食カロリーを計算して利用者様の健康チェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、10時、15時のおやつ前のお茶うがい、毎食後の歯磨きは全員が出来るよう、声掛けや介助が必要な方には介助している。義歯の方は、夜間のボリデント洗浄を徹底して行っている。歯科往診もして頂き、ケアのアドバイスも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわかるように表示すると共に、排泄の声掛けや誘導を行っている。定時の誘導を行うことで失禁が軽減している。失禁された際は配慮ある対応を心がけている。	服薬との関係から午前中排泄量の多い方には、定時以外にもトイレ誘導することで失禁せず過ごすことが出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操など運動を取り入れたり、ヨーグルトや水分を摂って頂くようにしている。毎朝、牛乳も提供している。ひどい便秘がある方に関しては、医師の指示に従い下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴だが、希望される方には入浴日以外でも入浴して頂いている。職員は浴室、脱衣室に1名ずつ配置し、コミュニケーションを取りながらゆっくり安全な入浴を心がけている。	気の合う方とは、同じ時間に入浴を行ってもらいおしゃべり等を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子での生活に付き、足を伸ばして血液の循環を良くするためにも、できる方には昼寝を一時間程行って頂いている。就寝時間の規制はしておらず、眠れないときは職員が話し相手になったり、飲み物などを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため薬入れの工夫を行い、服薬時は名前の確認と服用した事の確認を必ず行っている。また、診察の際に変化などを医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員見守りの下、食事の準備などを声掛けしてお願いしている。レクリエーションは、体を動かすこと以外に縫い物や塗り絵など、得意なことを行って頂いている。男性利用者様にはパソコンも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同行での散歩、買い物を行っている。また、外出を伴う行事の際には、利用者様全員に参加して頂いている。	気候の良い時期は殆ど毎日、近くの馬頭観音まで散歩をしている。地域の行事などにも希望者には参加して楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持たれ自己管理されている方もありますが、その反面、財布のしまい忘れやお金を盗られたなどの訴えもあるため、その都度話し合い解決している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人など、希望があれば電話の取次ぎは行っている。利用者様宛に届いたお便りには、返事を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には、花や観葉植物を置き、鑑賞したり、水やりなどの手入れを行ったりと楽しんで頂いている。中庭には野菜を植えており、季節の野菜の収穫を楽しんで頂いている。	桃の花や雛人形が飾られており、その側には行事の写真や作品が掲示されていた。嫌な臭いもなく、音や光も適切であり過ごしやすい環境であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロア内だが、食卓テーブルの他にテレビを見ながらくつろげる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用の際、馴染みの家具や小物などの持ち込みが出来ることを伝えている。また、面会時は居室でくつろいで頂けるよう、ミニテーブルセットでのお茶の提供を行っている。	ベット・クローゼットが備え付けのせいか、個性が感じられなかった。また、壁に紙等を打ち込むことが出来ないため白さが目立っていた。	入居時に具体的に持ち込んで欲しい、品目を伝えることで馴染みの物を持参してもらおうと共に、ボード等で自由に掲示できるスペースを確保してはどうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険物は手の届かない場所に保管したり、移動動線に物を置かないなど安全に心がけている。		